

タンザニアでの挑戦——技術を教えるために旅立つ

JICA青年海外協力隊に現職教員特別参加制度を活用して、出発する先生が来校しました

石田 学 先生



辞令を手に、赴任前の決意を語る姿。



校長室での辞令交付。深く一礼し、新たな一歩を踏み出す瞬間。

——今回の行き先はどこですか？

「アフリカのタンザニアという国です。だいたい1年半くらい住む予定ですが、最長で3年までいられる仕組みもあります。すでに30人くらいの日本人が暮らしているそうですよ。」

——気候はどんな感じですか？

「1年中あたたかいです。35度を超えるような猛暑は少ないそうです。逆に、山の高い場所では気温が一桁になることもあるとか。地域によっては日本よりも過ごしやすいと言われています。」

——体調の心配はありますか？

「マラリアという病気にかからないように注意が必要です。蚊が原因でうつるので、予防

の薬を飲んだり、虫よけスプレーを使ったりします。」

——どんな授業をする予定ですか？

「高校生から大人に近い年齢の人までに、技術や実習を教えます。授業は1日1回で、1時間半ほど。英語で話したあと、現地のスタッフがその国の言葉で説明してくれます。わかりやすくするために、パワーポイントを使ったり、『手をあげてください』といった簡単なやり取りを取り入れたいですね。」

——家族はどうするのですか？

「日本に残ります。呼び寄せられる制度はありますが、今回は使いません。家族も僕が長期間家にいないことに慣れていますが、やっぱり1年半は長いので少し心細いと思います。」

——生活はどんなふうになりそうですか？

「大きな町にはマクドナルドやケンタッキーなどがあります。地方では市場で買い物をするのが中心です。冷蔵庫などの家電は現地で買うことができます。インターネットもSIMカードを契約すれば使えますが、地域によっては不便なところもあるようです。」

——最後に、この挑戦をどう感じていますか？

「日本ではできない経験をたくさん積めると思います。生活の違いや現地の人との出会いは大きな宝物になるでしょう。タンザニアに行けるのは運が良いことと言われるので、この機会を大切にしたいです。」

人生なんてきっかけひとつ。

今の自分をなんか変えてみたい。
せっかくならドキドキすることしてみたい。
もしそう感じるものがあたら、
一歩踏み出すために
あなたのココロがくれたサインだ。
JICA海外協力隊なら
好奇心を刺激してくれる経験が必ず見つかる。
人生なんてきっかけひとつ。
さあ、新しい自分に会いにいこう。

「人生なんてきっかけひとつ。」JICA海外協力隊のPRポスターより